



世界初！ 難治緑内障に対する グリーンレーザーECP治療がスタートしました

眼科 教授 たにと まさき
谷戸 正樹

緑内障は眼と脳をつなぐ視神経が徐々に萎縮する病気で、わが国の失明原因第1位です。緑内障は、眼圧を低く保つことで進行が遅くなるという特徴があります。眼圧下降治療には、薬物治療、レーザー治療、手術治療がありますが、中でも約10年前に登場したチューブシャント手術が最も効果が高い治療として行われています。

しかし、少数ですが、チューブシャント手術でも眼圧が十分下降しない、難治症例が存在します。我々は、2014年から、チューブシャント手術無効例でも眼圧下降が期待できる術式として、ファイバーテック社（千葉県佐倉市）と共同で、内視鏡的毛様体光凝固術（Endoscopic cyclophotocoagulation, ECP）装置の開発を行ってきました。

この術式では、本来観察する事ができない毛様体ひだ部を特殊な内視鏡で観察しながら、レーザーで凝固します（写真1、写真2）。その結果、毛様体から産生される眼の中の水（房水）が減少する事で眼圧が下降します。また、術式の安全性を高めるために組織深達度が低いグリーンレーザーを世界で初めて採用しました。10眼を対象に行ったパイロットスタディでは、過去に平均4.3回の手術歴のある難治緑内障でも、術前27.3 mmHgの眼圧が術後約2年で12.9 mmHgと53%眼圧下降し、全例に効果が認められ、重大な合併症もありませんでした（文献）。

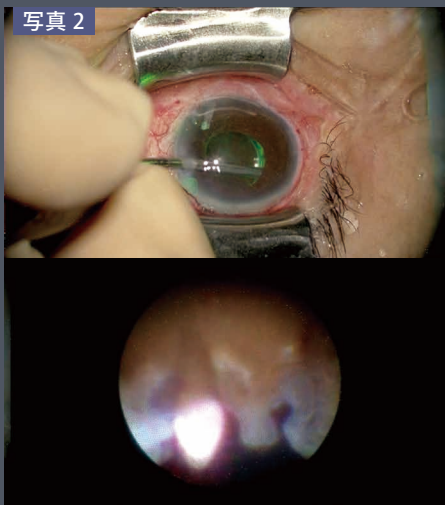
2022年には医療機器として承認を受け（図1）、7月から他施設に先駆けて保険診療による治療を開始しました。これまで、6例（山陰在住2例、四国在住1例、九州在住1例、関東在住2例）の治療を行いましたが、いずれも大きな問題無く経過しています。機器・術式の普及などこれからの課題もありますが、本術式が緑内障による失明を少しでも減らす事に貢献できることを期待しています。

文献：Tanito M, Manabe S, Hamanaka T, Sato H, Mori K: A case series of endoscopic cyclophotocoagulation with 532-nm laser in Japanese patients with refractory glaucoma. Eye 2020 Mar;34(3):507-514.

問合せ先 眼科学講座 医局 TEL：0853-20-2284



グリーンレーザーECPの手術風景
(患者さんの同意を得て撮影しています)



レーザーが照査されている様子(上)と
凝固されて白くなった毛様体(下)



承認されたグリーンレーザーECP用デバイス
(MTレーザーファイバカテーテル)。

